

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～2011

課題番号：20390559

研究課題名（和文） リンパ浮腫治療・ケアの質の保証に向けた体制作りの検討

研究課題名（英文） The developing the system for best quality of Lymphedema treatment and care

研究代表者

吉沢 豊予子（YOSHIZAWA TOYOKO）

東北大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：80281252

研究分野： ウィメンズヘルス

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：リンパ浮腫 予防教育 セルフケア教育

## 1. 研究計画の概要

この研究はリンパ浮腫治療・ケアの質の保証に向けて、教育・研究・治療・ケアの実践の3方向からアプローチし、リンパ浮腫治療・ケアの体制を確立することであった。そのため教育班・研究班・治療・ケア研究班体制とした。

研究目的

- (1) 教育班の目的：現在のリンパ浮腫治療専門家教育はどのようになっているのか、また、今後どのような教育をすべきなのかを実態を調査しながら教育体制を、カリキュラムなどを作る。
- (2) 研究班の目的：リンパ浮腫治療に関する研究が非常に少なく特にRCTのような介入研究が少ないため治療・ケアのエビデンスが蓄積されない。研究概要を調査しながら、エビデンスレベルの高いレベルをデザインし、実施する。
- (3) リンパ浮腫治療はどこで行われ、どのように行われているのか、今後治療体制としてどのような治療体制とすべきなのかを検討するという3つの目的のもとに実行した。

## 2. 研究の進捗状況

- (1) 教育班の進捗状況：リンパ浮腫の専門家を作る教育施設がどの程度あるか、またその他にどのような教育が行われているか実態調査を行った。その結果団体が作る養成機関2校、学会が企画するもの1件、民間の関連会社主催するもの、研究会、医療系の職能団体が企画するものなどがあり、基礎知識からリンパドレナージ、バンデイジの巻き方まで、行うものから、基礎的知識のものまで、多数であ

った。これらを基に、どの病院でリンパ浮腫にどの程度かわるかによって、その専門家のレベルも変わってきており、また医療職種によって、その専門性からどこまでリンパ浮腫を知っておく必要があるかなど今後教育の体制作りに示唆される結果を導くことができた。

- (2) 研究班の進捗状況：ここでの活動は、予防教育がいかに関リンパ浮腫の発症を遅らせることになるか予防教育を実践することから始め、質問紙表を用いて評価の検討を行った。その結果、早期に知識を獲得することで、日常予防行動が実施され、それによって、発症時期が遅れる傾向があることが示されている。また、早期の状態を非侵襲で簡便な方法で知る方法として、超音波診断装置による方法で、データ収集を行い、健常者とリンパ浮腫者の違いとして4つのポイントが明らかになった。①皮下組織の肥厚②組織の輝度の低下③脂肪線維の断裂と消失④エコーフリースペースである。このことから、早期のリンパ浮腫をできるだけスクリーニングすることに役立てることができる。
- (3) リンパ浮腫治療・ケア班の進捗状況：地域のリンパ浮腫治療・ケアを行っていくにはネットワーク作りを行った。東北リンパ浮腫研究を基盤として、連絡会を作り、患者の治療相談、患者紹介を実施していくこととした。また、続発性リンパ浮腫の子宮がん手術後患者のリンパ浮腫アルゴリズムを作成し、どの時点でどのケアがリンパ浮腫に関して受けられるかが分かるように作成し、体制作りを実施した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初計画していた内容については、3年間で3分野の内容について、ほぼ達成することができている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

研究面においては、より高いレベルのエビデンスを出していくには、評価に使用する測定器が必要である。このためには4年目の研究費では、不足なので、新たに研究の申請をする必要があり、平成23年度でリンパ浮腫治療・ケアの領域におけるEBP（証拠に基づく実践）の臨床的研究という題で基盤研究（B）に申請し、受託されている。今後はこの研究費を使って、エビデンスレベルの高い治療・ケアをできるようにしていく予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計5件）

1. Takeuchi M, Yoshizawa T. Nakamura Y, Atogami F.:Application of Ultrasonography to Assess Lower Limb Lymphedema. The 14<sup>th</sup> EAFONS. 13<sup>th</sup> Feb, 2011, Soul.
2. 山谷美貴、齋藤久美子、中野弘枝、中村康香、吉沢豊予子: 外来-病棟の連携のもとに行うリンパ浮腫予防教育方法の試み、第25回日本がん看護学会、2011. 2. 13, 神戸
3. 中野弘枝、齋藤久美子、山谷美貴、中村康香、吉沢豊予子: がん治療後の患者のリンパ浮腫に対する向き合い方の特徴、第25回日本がん看護学会、2011. 2. 13 神戸
4. 齋藤久美子、中野弘枝、関川栄子、中村康香、吉沢豊予子: セルフケア支援を目指したりんぱ浮腫予防教室の強化に関する研究、平成22年度日本看護学会成人看護学Ⅱ、2010. 8. 31、福岡市。
5. 中野弘恵、齋藤久美子、井上八重子、中村康香、吉沢豊子: 外来通院によるリンパ浮腫患者へのセルフケア教育介入内容の検討-リンパ浮腫軽減を体験した4事例-、第24回日本がん看護学会、2010. 2. 13、静岡

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

[http://www.geocities.jp/tohoku\\_lymphedema/index.html](http://www.geocities.jp/tohoku_lymphedema/index.html)